

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

就労を通じた社会的自立をし、生き生きと暮らしていける人材を育成する学校

- ・生徒の人権を尊重し、適切で効果的な指導・支援を行い、「生きる力」を育てる。
- ・生徒一人ひとりが、互いの違いや良さを認め合いながら活躍できる機会を創出する。
- ・社会の変化や多様性に柔軟に対応し、教職員一人ひとりが共に働く喜びとやりがいを感じられる職場を構築する。
- ・卒業後も生徒が笑顔で毎日を過ごせるように、本校の教育活動や生徒の良さを広く発信し、地域、企業、福祉等の関係機関と幅広く連携することをめざす。

2 中期的目標

1 生徒本人を中心に据えた支援・教育活動の充実と、安全安心で活力あふれる学校づくり

- （１）チームによる生徒の実態把握と効果的な支援の実施により、生徒の成長につなげる。
※生徒向け学校教育自己診断「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」R8：93%（R3：78%、R4：73%、R5：83%）
- （２）全教職員が連携して生徒の安全・安心を常にしっかり守れる体制を構築する。
- （３）情報通信ネットワークを適切に活用するとともに、教職員の個人情報の取り扱いに対する意識を高め、個人情報を適正に管理する。
- （４）偏見や差別を許さない、人権が尊重された教育を推進する。

2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成

- （１）１人１台端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくりをする。
※教職員向け「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」R8：100%（R3：100%、R4：90%、R5：95%）
- （２）生徒が社会の変化に対応できる力を育み、挑戦する意欲や自己肯定感、達成感を向上させる。
- （３）全教職員が連携して、進路学習・進路指導に取組み、生徒一人ひとりにあった進路実現をする。
- （４）実習先・雇用先を確保してマッチング機会を充実するとともに、関係機関との連携を密にし、卒業１年後の職場定着率 94%以上を維持する。
（R3：94%、R4：100%、R5：100%）

3 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上

- （１）初任者や経験年数の少ない教職員の育成を進めるとともに、全教員の支援教育の専門性を高める。
※「授業担当教諭の特別支援学校教諭免許保有率」R8：80%（R3：61%、R4：65%、R5：65%）
※教職員向け「初任者を含む教職経験１～２年めの者及び本校１年めの教職員に対する育成・支援が行われている」R8：75%（R3：63%、R4：73%、R5：65%）
- （２）相互サポートによる校務の効率化と働き方改革に取り組み、教職員の心身の健康の維持を推進する。
- （３）生徒が相談しやすい環境をつくり、必要に応じて関係機関と連携し、チーム学校として対応・支援する。

4 魅力ある取組みの充実と情報発信による高等支援学校への理解促進

- （１）地域等との交流・連携を深め、生徒が活躍できる機会を創出する。
- （２）中学校・支援学校中等部での適切な進路指導を促進するために、本校の教育活動に関して積極的に情報提供をする。
- （３）積極的な広報を行い、本校の取組みと魅力を鮮明に伝える。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価 <※学校教育自己診断は、【生】:生徒向け、【保】:保護者向け、【教】:教職員向け>

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 生徒本人を中心に据えた支援・教育活動の充実と、安全安心で活力あふれる学校づくり	(1) 生徒の実態把握と効果的な支援の実施 (2) 生徒の安全・安心を守る体制の構築 (3) 個人情報の適正な管理 (4) 人権を尊重した教育の推進	(1) ・個別の教育支援計画・指導計画を活用し、生徒に目標を明確に示すとともに、組織的に支援方法の工夫を検討する。 (2) ・緊急事態への対応として、併設校と連携し、実効性のある危機管理体制を確立する。 (3) ・校内ルールを点検し、実態に即したルールを定め、個人情報管理の適正な管理を進める。 (4) ・教職員の人権感覚を一層磨き、人権意識の高揚を図る。 ・がん教育を推進し、生徒のがんに対する理解を深める。	(1) ・支援教育コーディネート（個別の教育支援計画・指導計画の作成・管理など）を担当する新たな分掌を設置する。 ・【生】 「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」 肯定率：85% [83%] (2) ・防犯・防災計画の見直し・点検を8月末までに完了する。 (3) ・個人情報管理に関する校内ルールの見直し・点検を8月までに完了する。修正が発生する場合は、研修等により校内周知を徹底する。 (4) ・【教】 「生徒の人権を尊重して日常の教育活動を行っている」 肯定率：95% [93%] ・教職員向けの人権研修を2回以上実施する。 ・外部講師を活用し、全学年でがん教育を実施する。	
2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり (2) 生徒の自己肯定感・達成感の向上 (3) 生徒の企業就労支援 (4) 就労率・定着率の向上	(1) ・コンテンツの共有化や研究授業・事例研究などによる情報共有を進め、ICT 機器をさらに活用した、わかりやすい授業づくりを進める。 (2) ・各行事や活動の目的や内容を再点検し、生徒が主体的に取り組み、達成感を得られる取組みを実施する。 (3) ・生徒一人ひとりに応じたきめ細かい進路指導を行う。 (4) ・マッチング機会を増やすため、実習・雇用先の開拓・確保に積極的に取り組む。 ・卒業生進路先へのアフター訪問を継続的に実施して定着支援を行う。	(1) ・【教】 「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」 肯定率：95%以上を維持 [95%] ・【生】 「先生は授業や行事でタブレットを使って、わかりやすい学習をしてくれている」 肯定率：93%以上を維持 [93%] (2) ・【生】 「本校には達成感を味わうことができる活動がある」 肯定率：94%以上を維持 [94%] ・【生】 「本校の行事は楽しい」 肯定率：91%以上を維持 [91%] (3) ・【生】 「先生は、将来の進路や職業について自分にあったアドバイスをくれる」 肯定率：97% [95%] ・【保】 「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている」 肯定率：98%以上を維持 [98%] (4) ・「新規実習受入企業」が30 社以上 [25 社] ・卒業1 年後の職場定着率： 94%以上を維持 [100%]	

府立むらの高等支援学校

3 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上	(1) 支援教育の専門性向上 (2) 校務の効率化と働き方改革 (3) 関係機関との連携	(1) • 研修計画を立案し、OJT(On the Job Training)やOJL(On the Job Learning)により支援学校での勤務経験が少ない教員への育成・支援を行う。 • 特別支援学校教諭免許保有率が向上するよう、研修情報などを積極的に提供し、支援する。 (2) • 校務運営に ICT やグループウェアを十分に活用し、業務を効率化する。 (3) • 事案に対して、チーム学校として全教職員が同じスタンスで対応できるよう、校内研修を充実する。	(1) • 【教】 「初任者を含む教職経験 1 ～ 2 年めの者及び本校 1 年めの教職員に対する育成・支援が行われている」 肯定率：75% [65%] • 特別支援学校教諭免許保有率 保有率：70% [65%] (2) • 1 人あたりの時間外在校時間が前年度より 10%以上減少する。 月平均 19.2 時間以下 [21.3 時間] (3) • SSW のアドバイスを得ながら、福祉機関などの関係機関との連携についての校内研修を実施する。	
4 魅力ある取組みの充実と情報発信による高等支援学校への理解促進	(1) 地域等との交流・連携強化と、生徒が活躍できる機会の創出 (2) 中学校への積極的な情報提供 (3) 本校の取組みや魅力を伝える積極的な広報	(1) • 地域の小・中・高等学校と生徒間の交流を図る。 (2) • 地域の中学校や支援学校中等部へ進路指導に有効な情報を発信する。 (3) • ホームページやブログを効果的に活用し、タイムリーに情報発信をする。 • 企業や事業所の個別学校見学を積極的に受け入れる。 • 開校 10 周年行事を実施する。	(1) • 異なる校種との新たな交流の取組みを 1 件以上実施する。 (2) • 地域の中学校に「むらのセミナー」や公開授業週間を案内し、合計で 60 名以上が参加する。 [58 名] (3) • 年間情報発信計画に基づき、滞りなく情報を発信する。 掲載回数 86 回以上[86 回] • 個別見学会の実施回数 71 回以上 [71 回] • 12 月に記念式典を実施する。 記念誌・記念品の制作が完了する。	